

前号(6月号)で昨年8月24日から9月2日の10日間について8回に及ぶ『大連・長春・丹東の旅』旅行記はようやく終わったが、今年も5月10日から15日まで第3の故郷と思っている大連に行き、鞍山、本溪にも足を伸ばした。その旅行記を改めて書き始めたい。題して『大連・鞍山・本溪の旅(本稿はその1)』である。

今年は5泊6日の短い旅であったが、ちょうどアカシアの花が満開の時期に当たり、その微かに匂う香りの中で毎日変化に富んだ日々を送った。この時期の大連は1年で一番気候が良くそして美しさが溢れる時である。白い柳絮りゅうじょが飛び始め、赤やピンクのサクランボがこれでもかというくらいにあちこちで山積みで売られている。今回は往復とも中国南方航空のチケットなので、出発時刻は午後1時25分のため朝はゆったりと出掛けられてよかったが、帰りの15日は現地時間の朝8時20分のため実質4日あまりの旅となった。やはり行く日は朝4時起きでもANAの方が現地での行動には時間が取れて都合がいい。(ANA=成田出発10時10分、大連出発現地時間13時10分)こうしたことを書くのは、無理とは思いますが何とか週1便か2便でも羽田発の便を飛ばしてもらいたいからである。

さて5月10日、大連周水子空港には定刻より10分遅れの現地時間午後3時45分に着陸した。前の旅行記にも書いたが、来年は渤海に面した金州湾内の一部を埋め立てし、建設している、2018年開港予定の「大連金州湾国際空港(仮称)」に着陸するかもしれない。とすれば長年旅愁を感じてきた周水子空港の見納めかもしれない。「周水子」空港と書いてふと思いついたが、大連周辺には「〇〇子」という名の街がなぜか多いのである。列挙すると、本シリーズの何回目かに登場する予定の漢墓(漢=BC206年~AD220年)の史跡がある「営城子」、区の名前にもなった「甘井子」、さらに戦前の在住日本人が音読みで(カカカシ)と

呼んでいた美しい海水浴場のある「夏家河子」、また「長嶺子」、「沙崗子」等である。その多くは、旅順が終点の鉄道路線(旅順線)の駅名にもなっている。

「周水子」は、明治末から大正の初めころ発行された書籍「南満州鉄道案内」によれば当時は「臭水子」と言われており、旅順支線と瀋大線の分岐点の位置を占め主要駅となっている。周水子駅は日露戦争が終わって2年後の1907年(明治40年)開業で、開業当初の駅名はやはり「臭水子駅」である。中国人の友人に聞くと「周水子」は、「臭水子」という町と「周家屯」という町が合併して新たに今の地名になったそうだ。このころは日露戦争後日本が統治していたが、字面がよくないので日本語では同じ発音であったからこの字に変えたのかと思ったりしたがそうではなかった。空港名もこの町の名前から付けられたものだ。「大連臭水子空港」ではちょっと具合が悪いが周水子にしてよかったではないか。



戦前の遼東半島先端地図。

大阪朝日新聞・満州版(1936年)より



友人たちと「品海楼」で

空港には、中国人の友人とその娘夫婦がマイカーで迎えに来てくれる事になっている。税関を無事通過し、なかなか出てこない荷物をようやく受け取り出口に向かうと、彼らが大きく手を振って出迎えてくれた。この瞬間はとても嬉しいものである。この時、陽もだいぶ西に傾いてきた。空港から市内中心部までは、地下鉄2号線で4元払えば簡単に行けるのでわざわざ迎えは必要ないのであるが、今回の旅の用件の一つは彼らに頼まれたベビー用品を運ぶ役目があった。

彼らには8月初旬に子供が生まれる。9月号で触れられれば触れたい。依頼された用品の内容は、粉ミルクは言うに及ばず、数種類の哺乳瓶、数種類の吸い口、瓶洗浄用のブラシ、洗剤などである。

これらの品物は、ベビー用品専門の「西松屋」で購入したのであるが粉ミルクは0～1歳と、1～3歳に分かれており、吸い口も同様に分かれている。きめ細かく分かれているとは少しも知らなかった。考えてみれば生まれたばかりの赤ちゃんに大きめの吸い口で飲ませると嘔^もせてしまうであろう。目から鱗の思いであった。

私からはベビー服をプレゼントした。ベビー服は中国ではかなり高いとかでえらく感謝された。賞味期限を確認しながら買った粉ミルク3缶のおかげで私の旅行鞆はかなりのスペースを奪われてしまった。初めての子供であり、大切に育てたいのは分かるが自国の商品はあまり信用していないようであった。そういえば大連で勤務していた時も何度か粉ミルクを頼まれた記憶がある。小包で送ればよいように思うが、今は粉ミルクについて、中国は自国の産業保護の為に郵送はできないようだ。先日もある会合でこの話が出ていた。

駐車場に置いてあるBMWに乗り込み、大連での定宿である「大連中山大酒店」に向かい、そこで頼まれたものを渡して大変喜ばれたのは言うまでもない。1階のフロントで元に換金し押金(保証金)を払ったが、1万円が586元しかない。昨年8月に行った時は、643元であったので少し損をした気持ちになった。部屋は日本人優先階の26階であった。

夕方になったので娘さんの友人も加わり、5人で「品海楼」に行きご馳走になった。品海楼は、大連市内にはいくつもある有名な海鮮レストランである。例によって食べきれないほど注文し、「食べる、食べる」と勧められた。食べ残しは「打包」するよう店員に言って持ち帰っていた。腹いっぱい食べ、13日に「営城子」に行く段取りを確認し、ホテルに送ってもらった。明日11日は大連北駅から高鉄に乗って日本人には比較的なじみがある鞍山に行くが、朝が早いのでシャワーを浴びて早めに横になった。

(続く)